

平成26年度第1回大和市消防運営審議会議事録

平成26年9月24日（水）

午後2時00分から 消防本部3階第1会議室

（傍聴者なし）

○審議会委員出席者 石井委員、市川委員、加藤委員、北島委員、竹本委員、富澤委員、野村委員、山西委員、力武委員（計9名）

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 消防長あいさつ

4. (1) 委員自己紹介

(2) 消防職員紹介

5. 議題

(1) 平成25年度消防業務の概要

※「柳橋出張所増改築事業」、「応急手当普及啓発事業」、「救護活動用資機材整備事業」、「少年消防団支援事業」、「初期消火用資機材整備事業」について事務局から説明。

委員： スタンドパイプ消火資機材訓練について、地域への指導を消防団員ができるようにできないものか

管理課長： 現在の地域防災訓練でも、消防団員と消防署員が協力して指導に当たっています。

委員： 引き続き消防団員が資機材の訓練、指導ができるような取り組みを進めてください。

(2) その他

※平成24年度に答申された「救急事業対策検討報告書」に基づいた取り組みについて、特に救急隊増隊に関する進捗状況を消防長が報告。

6. 防火ポスター選考

※市内小中学校から応募された防火ポスターについて、最優秀賞2点、優秀賞3点、優良賞4点、努力賞8点が決定。

7. その他

委員： 大和市の特徴として、外国人が多い状況が見られるが特に言語の問題で苦労していることなどあれば教えてほしい。

消防長： 救急車の要請については、英語ができる方であれば、厚木基地との連携で、基地職員が通訳となって電話対応することが可能です。しかし、その他の言語になると、現状対応が非常に厳しい状況です。日本語がわかる方に助けを求めて、何とか住所を伝えられる状況でないと対応がむずかしくなります。固定電話からの通報であれば発信位置の特定はできますが、携帯電話からの通報であると場所が絞れない可能性があります。更に、現場対応について、救急車には、数か国語に対応した、救急事案に特化した用語集を常備し、隊員が症状について指し示すなどの対応をとっておりますが、その言語とは別の言語だと、かなり対応に苦慮してしまいます。

委員： 大和市は100か国程度の外国の方が居住されており、住民中の外国人の割合が、県内でも2番目に多い市であると聞いています。

委員： 病院への入院手続き等隊員が対応することはありますか。また国籍等の要件は救急利用についてあるのでしょうか。

消防長： 隊員はそこまでの手続きはとりません。搬送者の国籍も問いません。

委員： 高齢者や障がい者など、災害弱者への対応については進めていると思いますが、日本語ができない外国人についても災害弱者というか、何かしらの対策は必要であると思います。

委員： 消防救助技術大会における大和市の結果を教えてください。

消防長： 今年は、障害突破チームが関東大会を通過し、全国大会へ出場する予定でしたが、広島県の災害の関係で全国大会が中止になってしまいました。

※事務局から、次回の審議会について来年2月開催予定と連絡あり。

8. 閉会